

勝福寺～板宿八幡神社～百耕資料館

板宿とはどんな所？

板宿は神戸市須磨区の南東部に位置する。背後に六甲山系の山を背負い、そこに源を発する妙法寺川の扇状地に開けた地区で、非常に古い時代から集落があったといわれている。鎌倉時代には板宿村という村の名が現れており、以後農村集落として発展した。幕末には戸数 55 軒、人口 300 人ほどで、田んぼが広がり、数多くのため池をかかえた村であった。

板宿村は明治 22 年（1889）発足した須磨村に編入された。後に神戸の市街化や、兵庫電気軌道（山陽電車の前身）の開通などにより、農村だった板宿も市街化が形成されていった。現在は西神戸の繁華街として発展している。

地名のいわれは、菅原道真が大宰府に流される途中、この地に立ち寄ったところ、住民が粗末ながら板で囲った宿を提供してもてなしたことによると言われている。しかし、これは後世の創作であり、実体は、本来の地名が板井戸村であり、これが転化したものと考えられている。

① 證誠神社

永延元年（987）9 月紀州熊野権現（※1）を勧請して勝福寺の地主神として祀ったと伝えられている。江戸時代には妙法寺川周辺の手、板宿、東須磨、野田、駒ヶ林の五ヶ村の総鎮守として栄え、聖霊大権現と呼ばれた。明治 4 年（1871）神仏分離後は祭神を五十猛命（いそたけるのみこと ※2）とし、現在の社名となった。一般には「大手の権現さん」と呼ばれている。



（※1）権現……仏教の勢力が強い時代に神道は仏教と習合し、あるいは取り込まれた。権現はそのことを端的に示す言葉であり、仏や菩薩が本来の姿であり、仮に神の姿をとって現れた神を権現といった。

（※2）五十猛命……素戔鳴尊の子で、樹木の神とされ、風水害を植林や植樹により守るとされている。当神社の祭日には必ず雨が降るため、「しょぼしょぼ権現降る 長田、生田は降らぬ事なし」と言われるように、両神社と並ぶ神戸屈指の古社である。

② 子守神社

古い歴史があり、勝福寺と證誠神社の間に位置することもあり、籠り堂として使われていたと言われている。現在では子供の夜泣きを防いでくれる神社とされている。阪神淡路大震災により全壊したが、その後再建された。

③勝福寺

永延2年(988)太政大臣藤原伊尹(これただ)の三男英雄丸が一条天皇の勅命により「証楽上人」と名を改め、神撫山(高取山の旧名)山麓に草庵を設け、鹿松峠(かのししまつ)に出没していた鬼人を平定したのち開基した寺と言われている。

御本尊は弘法大師が彫ったとされる聖観音菩薩であり、開山時は七堂伽藍、36坊を有する大寺院であったが、長徳2年(996)に発生した山津波により伽藍の大半は失われた。

平清盛が兵庫津に経ヶ島を築いた時、勝福寺の信徒が大いに協力したため、お礼として金銅製の密教法具を寄進された。これは日本最大級のもので、国指定の重要文化財に指定されている。(現在は大阪市美術館に寄託されている。)

この寺が更に荒廃したのは観応の擾乱(※3)の時である。御影の浜の戦いで敗れた足利尊氏がこの寺の背後の飛松岡にあった「松岡城」に手兵わずか500名と共に立てこもった時に包囲され、炎上したといわれる。

(※3) 観応の擾乱……足利尊氏が弟の直義と敵対関係になり、3年にわたって続いた(1350~52)

室町幕府内部の権力闘争である。勝福寺の南側にある歴代住職の墓がある場所は、尊氏が切腹をしようとした場所とされ、「はらきん堂」の名が残っている。

- ・境内の裏山には八十八ヶ所巡りがある。
大正14年(1925)完成。



④板宿八幡神社

昌泰4年(901)菅原道真が大宰府に流される途中、この地に立ち寄ったところ、住民が粗末ながら板で囲った宿を提供してもてなしたと言われている。
この地で道真は

「梅は飛び 桜は枯るる 世の中に何とて 松のつれなかるらむ」

(自分が家を出て大宰府に向かうと、自宅の庭の梅は匂いをよこしてくれて桜は悲しんで枯れたが、松だけはなぜかつれない態度をとっている)

道真のこの歌を聞いた松は、この地まで道真を慕って飛んできたという。この松を飛松と言ひ、この地区の地名「飛松町」として今も残っている。

飛松は高さ30mもあり、航海の目印にもなっていたが、大正時代に落雷で枯れてしまい今は切り株だけが残っている。この切り株を祀っているのが、境内にある飛松天神社である。社の中には切り株が鎮座している。「大宰府の飛梅」に対して「板宿の飛松」として信仰されている。



この八幡神社は永延元年(987)に八幡大神(応神天皇)と菅原道真を祭神として創建

された。高尾山の中腹（標高 77m）にあり、境内からは須磨から長田に至る神戸の下町を一望できる。

⑤百耕資料館

今年 7 月第 1 回神戸歴史遺産（※）に認定された。

板宿地区の旧家である武井家が所蔵する歴史資料、美術資料を広く一般の人々に公開し、地域文化の継承と発展に寄与すうるため、昭和 62 年（1987）に設立された。名称は多彩な業績を残した武井伊右衛門の雅号百耕にちなんで名付けられた。

（※）神戸歴史遺産とは……文化財指定を受けていなくても地元の人々が大切に守ってきた歴史的な伝統行事や史跡・建物の保存・活用を目的として、令和 2 年（2019）に創設された神戸市独自の制度。



⑦禅昌寺

延文年間（1356～1361）に月庵宗光の開山により創建された臨済宗南禅寺の寺院である。山号は神撫山。三韓征伐の際、長田に上陸した神功皇后が座った石を撫でたところ、大きな岩となり、ついには高取山にまでなったという伝説から、この名がついた。

足利幕府は寺領 36 石を寄進し、織田信長・荒木村重からは諸役免除の特権を受けた。建立当初の堂宇は豊臣秀吉の三木合戦に巻き込まれて焼失した。後に秀吉の桃山御殿の建物を移築して方丈として再興したが、その建物も明治時代に焼失した。現在の本堂は大正 4 年（1915）に再建されたものである。

紅葉寺とも呼ばれており、広い参道わきの紅葉は素晴らしく、周辺の景観等の調和は古来より有名である。また境内には松尾芭蕉や伊藤博文等の文学碑があり、山門は江戸時代の有名な彫刻職人、左甚五郎の作と伝えられている。

また「スズメのお宿」としても評判である。このお寺の竹林に来るスズメに宿を作ってあげようと、昔住職がひょうたんに横穴を開けて吊るしたのが有名となった。今は開山堂の軒に吊るされている。

（次回予告）

2022.1.8

兵庫史を歩く No.22 福をいっぱい授かろう

兵庫七福神巡り